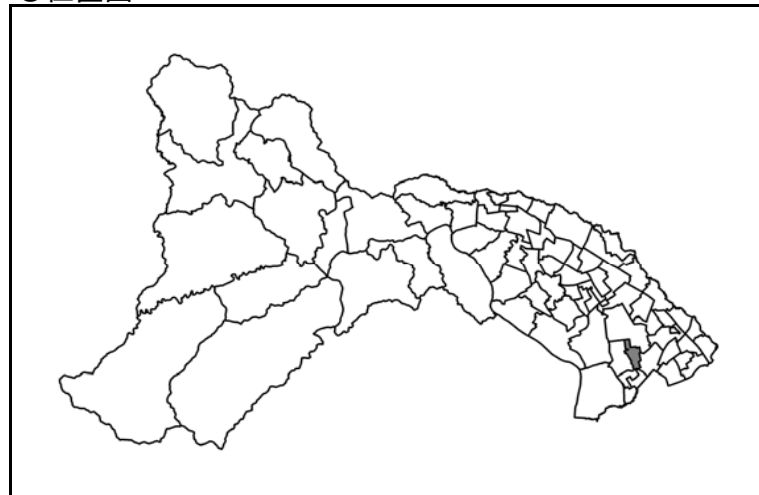


○地区を構成する町丁

【南区】麻溝台5丁目・6丁目・8丁目、相模台5丁目～7丁目、相模台団地、桜台、双葉2丁目

○位置図



○地区自治会連合会名(自治会名)

相模台(相模台ハイツ, 自治会法人相模野, 相模台団地分譲, 相模台団地, 自治会法人第一住宅, 桜台19番, 自治会法人双葉, 自治会法人麻溝台, 旭, ハイム桜台, 相模台)

○地区概況

台地(上段)にあり、大部分は平坦な地形である。中央部には広域避難場所となっている(独)国立病院機構相模原病院等があり、その北側を水道道緑道が東西に通っている。南部には相模台団地があり、その他は一戸建住宅が多い。

○建物数・人口

建物	区分		建物(棟数)	
	区分	棟数		
建物	木造(昭和55年以前)	469棟		
	木造(昭和56年以降)	900棟		
	非木造(昭和55年以前)	107棟		
	非木造(昭和56年以降)	264棟		
	合計	1,740棟		
人口	区分		人口(人)	
	区分	人数		
	0～4歳	352人		
	5～64歳	5,652人		
	65歳以上	2,388人		
合計	8,392人			

○所見

- ・避難所及び広域避難場所が地区中央付近に集中し、避難は比較的容易である。
- ・地区内には、比較的水害履歴が多い。
- ・富士山の大規模噴火時には2～30cmの降灰が予測されており、その場合、道路・鉄道の通行不能をはじめ、停電や取水停止など重大な被害を受ける。

○防災関連施設

市役所、まちづくりセンター、出張所等の主な公共施設	
警察署	新磯野交番
消防署	麻溝台分署
消防団詰所	麻溝台
病院等	国立病院機構相模原病院, 中野医院
主な災害時要援護者施設	神奈川障害者職業能力開発校, おもいやりの郷 麻溝台ホーム, ワイビレッジ(知的障害者グループホーム)
幼稚園、保育園	麻溝台保育園
学校、大学	相模台中学校, 桜台小学校
避難所	相模台中学校, 桜台小学校
※洪水時避難所兼用	
洪水時避難所	
広域避難場所	独立行政法人国立病院機構相模原病院一帯
防災備蓄倉庫	※桜台小学校・(独)国立病院機構相模原病院一帯, 相模台中学校
※広域避難場所対応	
臨時ヘリポート	

○地震被害予測結果

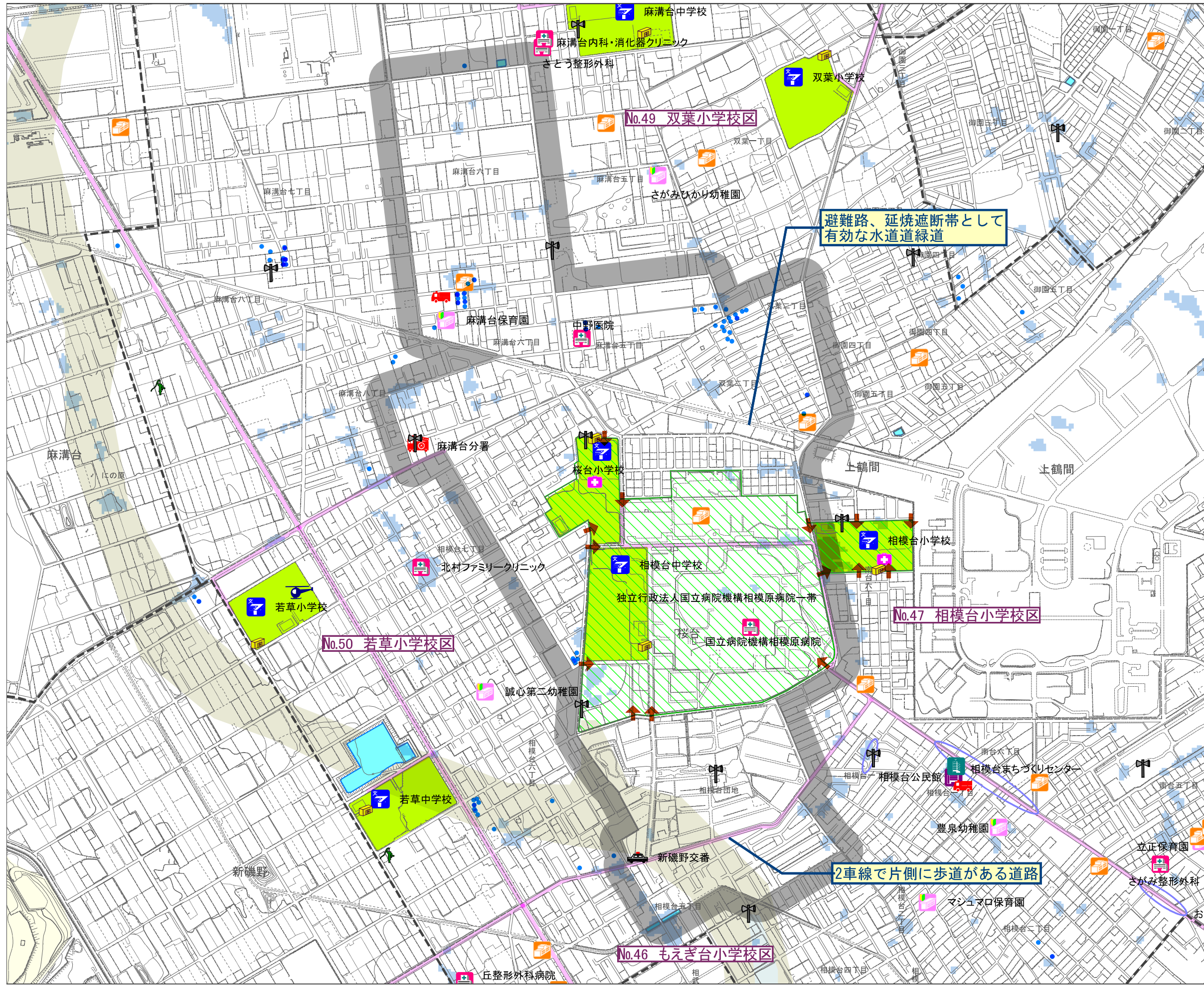
	東部直下地震		西部直下地震		大正関東タイプ地震	
	被害量	比率	被害量	比率	被害量	比率
建物全壊	94棟	5.4%	8棟	0.4%	17棟	1.0%
建物焼失	19棟	1.1%	1棟	0.1%	0棟	0.0%
死者	6人	0.1%	0人	0.0%	1人	0.0%
閉込者	42人	0.5%	4人	0.1%	10人	0.1%
重傷者	7人	0.1%	1人	0.0%	1人	0.0%
軽傷者	43人	0.5%	12人	0.1%	18人	0.2%
避難所避難者(当日)	337人	4.0%	50人	0.6%	91人	1.1%
避難所避難者(1週間後)	775人	9.2%	287人	3.4%	409人	4.9%

○災害危険度評価

危険度評価項目	→危険度が高い
水害	
土砂災害	
地震による地盤災害	
地震による建物被害、火災	

○近年の主な災害履歴

平成1年 8月27日 床下浸水3戸
 平成2年 9月30日 床下浸水2戸
 平成2年11月30日 床下浸水1戸
 平成3年 9月19日 床下浸水24戸、床上浸水8戸
 平成10年 7月30日 床下浸水1戸、床上浸水1戸
 平成13年 8月11日 床下浸水1戸
 平成14年 8月16日 床下浸水7戸



防災関連施設等

	市役所、まちづくりセンター等
	公民館、主な公共施設等
	警察署、交番、駐在所
	消防署
	消防団詰所
	病院等
	主な災害時要援護者施設 幼稚園、保育園
	学校、大学
	避難所・洪水時避難所
	広域避難場所
	広域避難場所への車両進入可能箇所
	救護所
	防災備蓄倉庫
	ひばり放送塔
	雨水調整池
	臨時ヘリポート
	災害時協力井戸
	緊急輸送路
	小学校区境界
	地区自治会連合会境界

地形分類

	山地・丘陵地
	低地
	台地
	台地上の浅い谷
	段丘崖
	山麓堆積地形・扇状地
	人工地形

災害履歴

	浸水があったところ
	土砂災害があったところ

災害危険箇所等

	重要水防区域
	浸水想定区域(河川氾濫)
	浸水想定区域(内水)
	浸水被害警戒地域
	土石流危険渓流
	土石流危険区域
	急傾斜地崩壊危険箇所
	地すべり危険箇所

書き込み欄

みなさんが知っている防災の情報を記入しましょう(例: 浸水しやすいところ、防火水槽の位置など)